

平成26年度目白の100冊＋α

「評論部門」課題図書

No.	著者名	書名	出版社	分野	推薦者のコメント	請求記号	
1	池上 彰	池上彰のやさしい教養講座	日本経済新聞出版社	社会科学	教養を学ぶとは、自分で学び続け、考えていくこと。過去の叢智も愚かな失敗も歴史を学ぶことが参考となるが、高校までの歴史を学ぶ時間では現代史には追いつけない。そこで著者が、最新ニュースからやさしく現代史を解説する。	受入中	
2	一流倶楽部	大人の教養大全	宝島社	社会科学	品格ある大人になるためのニュース知識・日本文化知識・歴史教養から、マナー教養・ビジネス教養・正しい日本語など10の主題に分けて紹介している。	受入中	
3	出口 治明	仕事に効く教養としての「世界史」	祥伝社	社会科学	『日本を知りたいければ、世界の歴史を知ることだ』ということで、人類5000年史から現代を読み抜く10の視点で書かれている。帯に“先人に学べ、そして歴史を自分の武器とせよ。”と紹介されるようにビジネスリーダーの声に耳を傾けよう。	受入中	
4	齋藤 孝	教養力：心を支え、背骨になる力	さくら舎	知識・学問・学術	ストレスの多い現代だからこそ心の支えとなる教養が必要である。教養は心を支える力、心の免疫力を高めるものであり、誰にでも教養を身につける方法がある。	002/SA	
※	5	西垣 通	ウェブ社会をどう生きるか	岩波書店	情報科学	インターネット社会は住みよいか、住みにくいか。自分なりに生きていくために必要なものの考え方、生活態度などを根本から教えてくれる。	080/ISR/1074
※	6	姜 尚中	悩む力	集英社	哲学	現代社会の猛烈な「変化」の中、自己肯定もできず、楽観的にもなれず、スピリチュアルな世界にも逃げ込めない人たちは、どう生きればいいのか？最後まで「悩み」を手放すことなく真の強さをつかみ取る生き方を提唱する一冊。	159/K/1
※	7	塩野 七生	ルネサンスとは何であったのか	新潮社	歴史	世界史上、最も印象的な出来事を新しい視点から見直す。これまでの理解が思い込みに過ぎなかったことを納得させる。	237.04/SH
※	8	青山 和夫	マヤ文明：密林に栄えた石器文化	岩波書店	歴史	我々とは全く異質な文明の存在を知ると、視野が大きく広がる。人類に対する共感、共鳴が強まる。	256.03/A
	9	石川 英輔	大江戸テクノロジー事情	講談社	歴史	著者は元東京大学教養学部教授。小説『大江戸神仙記』でデビューの異色作家。「もしも現代人が突然江戸時代にタイムスリップしたら…」という設定も、コミック『JIN』より遥か以前の作品でした。文献資料を駆使しての本書も、和時計、からくり、天文学、花火、朝顔の品種など盛りだくさん。日本文化を知るには格好の書。	210.5/I
	10	イザベラ・バード	完訳日本奥地紀行（1-4）	平凡社	地理	明治初期の紀行文。東北・近畿の日本人の生活、文化、社会を考えることができます。	291.09/BI/1-4
	11	岡部 光明	大学生の品格：プリンストン流の教養24の指針	日本評論社	社会科学	全米トップに評価されるプリンストン大学で学び、また教壇に立った経験を踏まえ、大学で何をどう学ぶか、24のメッセージにまとめている。	377.9/OK
※	12	宇野 常寛	日本文化の論点	筑摩書房	社会科学	経済や政治の不振ばかり言われる日本だが、インターネットやアイドルの世界では新しいコンテンツが生まれている。新情報化時代の針路を考え、発想の転換を勧める。	361.5/UN
※	13	ノーム・チョムスキー	メディア・コントロール	集英社	社会科学	現代社会におけるマスメディアの働きを解りやすく解説、批判する。	361.453/C
※	14	林 語堂	中国=文化と思想	講談社	社会科学	欧米文化を熟知する林語堂（りん・ごどう）が外国人向けにわかりやすく中国文化の真髄を語ってくれています。	361.42/R
※	15	渡部 昇一、呉 善花	「近くて遠い国」でいい、日本と韓国	ワック	社会科学	日本と韓国を理解し、異文化を理解することは韓国語学科の学生に、また外国語を勉強する学生に必要なと思われる。	361.42/WA
	16	佐藤 卓巳	テレビ的教養：一億総博知化への系譜	NTT出版	産業	私たちにとって身近なテレビですが、その社会的な意味や役割を考えたことがありますか。インターネットが台頭してきた今、テレビの役割をマクロな視点で見つめなおすための本。	699.21/S
※	17	佐々木 健一	美学への招待	中央公論新社	芸術	芸術の世界もどんどん変化しています。日常的な視点から新たな美と感性について考えるヒントをくれる本。	080/C/1741

平成26年度目白の100冊＋α

「読書と思索大賞部門」課題図書

No.	著者名	書名	出版社	分野	推薦者のコメント	請求記号
18	ジョン・バツテル	ザ・サーチ：グーグルが世界を変えた	日経BP社	情報科学	検索エンジン・グーグル。その歴史を描いたノンフィクション。いかにしてグーグルは「検索」を制したか。	007.58/B
19	渡辺 和子	置かれた場所で咲きなさい	幻冬舎	哲学	状況を不満に思うより自分が今いる状況でどうするかを、著者のキリスト教信仰に基づきつつ親しみやすい言葉で綴った、当たり前のことだけれど実践するとき凄さがわかる本。	159/W
※20	林 真理子	野心のすすめ	講談社	哲学	常に第一線で活躍してきたかに見える著者も決して順風満帆な人生だった訳ではない。自身の経験をこれほどまでにオープンにし、上昇志向、高望みを野心とまで言い換えた初の人生訓。	914.6/HA
※21	アン・モロウ・リン ドバーグ	海からの贈物	新潮社	哲学	都会の日常生活を離れ、島で1人静かに過ごす時間。作者は女性の自立について内省する。1955年の発表時からロングセラーを続ける本書に、世界中の女性が励まされたはず。	159/L
※22	茂木 健一郎	セレンディピティの時代：偶然の幸運に出会う方法	講談社	哲学	偶然の幸運に出会う能力「セレンディピティ」。デジタル時代に失われがちな、人生における大切なこと。自分を変えるきっかけがほしい人はもちろんのこと、この能力の育成の視点から将来を構想してみたい人にもお勧めの1冊である。	159/M
23	フリードリヒ・ニー チェ	超訳ニーチェの言葉	ディスカヴァー	哲学	どこから読んでも、面白くためになる。そしてとても深い。ニーチェが残した言葉を一つ一つかみしめていくと、愛、そして本当の絆が見えてくる。	134.94/NI/ 1
※24	下條 信輔	サブリミナル・マインド：潜在的人間観のゆくえ	中央公論社	心理学	あなたは自分の心がわかっていますか？ わかっているようでわかっていない自分の心のしくみを知るための本。	145.1/S
※25	永井 均	倫理とは何か：猫のインジヒトの挑戦	筑摩書房	倫理学	私たちはなぜ道徳的に生きなければならないのでしょうか。対話形式で倫理学についてわかりやすく教えてくれる本。	150/N
※26	立花 隆	二十歳(はたち)のころ：立花ゼミ『調べて書く』共同製作(1・2)	新潮社	歴史	興味深い人々に対して学生たちが準備して行ったインタビューのまとめである。十分な準備のものと行われているために回答者も真摯で率直に話しているものが多い。いずれも青春の断片のドキュメントであり、同じ年頃の学生が興味を持って読める内容である。	281.04/TA /1-2
27	デイヴィド・B.モリス	痛みの文化史	紀伊国屋書店	歴史	古今の芸術作品や文学を通じて、痛みの体験は単なる電気信号を超えた個人の生きるあかしであることを説く、いわば心理歴史学の一書。	230.04/MO
28	梅棹 忠夫	日本文明77の鍵	創元社	歴史	ことば、芸術、メディア、科学技術など、日本史学の枠を超えた視点から77のキーワードを選び、現代日本文明のさまざまな面を歴史的視点からとらえた好著。	210.04/U
※29	E.H. カー	歴史とは何か	岩波書店	歴史	過去を学ぶことなしに未来への展望をたてることはできない。歴史的事実とは、法則とは、個人の役割とはなど、歴史における主要な問題について明快に論じた名著。	201/C
30	龍 應台	台湾海峡一九四九	白水社	歴史	1949年、中国での内戦に敗れた国民党政府は台湾に敗走、それに伴い多くの人が故郷や家族と引き離されて海峡を渡った。当時の証言や文献から、リアルな歴史が見えてくる。	222.407/R
※31	ハインリッヒ・シュ リーマン	シュリーマン旅行記清国・日本	講談社	歴史	トロイアの遺跡発掘など、エーゲ文明の発見・発掘に貢献したシュリーマンの、東洋見聞記。	291.09/SC
※32	安達 正勝	物語フランス革命：バスチーユ陥落からナポレオン戴冠まで	中央公論新社	歴史	フランス革命をこれほどまで面白く描いた本はない。副題の通り、バスチーユ陥落からナポレオン戴冠までを生き活きと描き出している。	235.06/A
33	堀川 恵子	永山則夫：封印された鑑定記録	岩波書店	伝記	埋もれていた精神鑑定資料テープを掘り起こし、死刑となった連続殺人犯の「無知の涙」の真相にもう一度迫る。	289.1/NA
※34	乙武 洋匡	自分を愛する力	講談社	伝記	「自己肯定感」というややこしい心理学概念を、今できることは何か？という具体的な視点から考えさせてくれる。	289.1/OT

平成26年度目白の100冊＋α

No.	著者名	書名	出版社	分野	推薦者のコメント	請求記号
※35	河合 敦	岩崎弥太郎と三菱四代	幻冬舎	伝記	岩崎弥太郎を筆頭に幕末から明治・大正・昭和に続く連綿たる企業。海運の三菱は人材に力を入れ、大卒を大幅に採用してきた。	289.1/I
※36	ロバート・フォーチュン	幕末日本探訪記：江戸と北京	講談社	地理	著者は英国の園芸学者。1860年から1年あまり、北京と江戸を植物採集のために訪れた。植物以外の記述も、また挿絵も興味深いものがある。	291.09/F
※37	湯浅 誠	反貧困：すべり台社会からの脱出	岩波書店	社会科学	今日も継続する問題である貧困について、わが国の現状を考察し、セーフティーネットの意味を考察しています。	368.2/YU
※38	濱口 桂一郎	新しい労働社会：雇用システムの再構築へ	岩波書店	社会科学	若者の就職難はどこからくるか、それを少しでも改善するにはどうしたらよいか。経済の新しい現実を踏まえ、それに即した雇用の在り方を説く。	366.21/HA
※39	内田 樹	下流志向：学ばない子どもたち 働かない若者たち	講談社	社会科学	学習も労働も本来すばらしいものはずなのに、「勉強したって意味がない」「学生のままでいたい」と自らの意思で自分を駄目にしようとする人が多いのはなぜでしょうか。	367.6/UC
40	ダニエル・ピンク	フリーエージェント社会の到来：「雇われない生き方」は何を変えるか	ダイヤモンド社	社会科学	在学中に就活をして、大学卒業時にすぐ「正」社員になって、定年まで同じ会社で働く…という生き方はアメリカでは既に無くなりました。日本もやがてそうなるのでしょうか。	366.29/P
41	古市 憲寿	絶望の国の幸福な若者たち	講談社	社会科学	格差社会の「不幸」が報じられる中で、多くの若者たちが現在の生活に「満足」している。「幸福」を感じている若者の正体を徹底的に取材した新しい若者論。	367.68/F
※42	ポール・ウィリス	ハマータウンの野郎ども	筑摩書房	社会科学	労働者階級の生徒の生活や職業観を詳細にたどることにより、文化の再生産に学校が如何に関わっているのかを明らかにした。	367.6/WI
43	ルース・ベネディクト	菊と刀：日本文化の型	社会思想社	社会科学	文化人類学者が日本とは何だという視点で書いたフィールドノート(エスノグラフィー)をまとめた本です。第二次大戦後の日本統治をどのようにしたらよいかというアメリカ軍の教科書にもなったといわれています。まだまだ貧しかった日本は、どのように見られていたのかを考えて下さい。	389.1/B
※44	ジャレド・ダイヤモンド [ほか述]	知の逆転	NHK出版	社会科学	現存する知の巨人の英知が一度に10冊分得られる、日本人ジャーナリストのインタビュー集。	304/DI
45	斎藤 美奈子	紅一点論：アニメ・特撮・伝記のヒロイン像	ビレッジセンター出版局	社会科学	アニメや特撮の戦隊ヒーローの女子はなぜ「紅一点」なのか？ サブカルチャーや児童向け伝記の中の女性像を分析し、現代日本のジェンダーの問題にせまる。	778.77/S
※46	玄田 有史	希望のつくり方	岩波書店	社会科学	長期化する経済の低迷、強まる社会の閉塞感の下で、どうすれば将来に希望を持つことができるか。答えは意外なところにあるのか、当たり前のあるところにあるのか、読者の読み方にかかっている。	304/G
※47	山岸 俊男	安心社会から信頼社会へ：日本型システムの行方	中央公論新社	社会科学	最近誰も信用できなくなった。日本社会はこれからどうなっていくのか？ そんな不安を感じる人に読んでほしい本。	361.4/Y
※48	黒野 耐	「戦争学」概論	講談社	社会科学	「平和」を守りたいなら「戦争」を学ぶ必要がある。地政学から見た国防戦略の理論、ナポレオンからイラク戦争に至るまでの戦争態様の変化など、必読の戦争入門書。	319.8/KU
※49	佐伯 啓思	自由と民主主義をもうやめる	幻冬舎	社会科学	自由と民主主義の名の下に個人の飽くなき欲望を肯定し、グローバル化を強引に主導してきたアメリカ的価値から、日本が決別して再生する方法を論じた良書。	304/S
※50	竹田 恒泰	日本はなぜ世界でいちばん人気があるのか	PHP研究所	社会科学	世界から愛される日本を日本人が知らない。アニメ、食文化、モノづくり、日本語、和の心、エコなど、あらゆる日本文化に好意が寄せられている事実を知る入門書。	361.5/T
51	野中 郁次郎 [ほか]	戦略の本質：戦史に学ぶ逆転のリーダーシップ	日本経済新聞社	社会科学	日本の組織が苦手とする「相手の強み」を弱みに変える逆転の戦略。現代の戦史を戦略論や組織論のアプローチで分析し、何が勝利の条件かを明らかにする意欲作。	391.3/N
※52	藤原 正彦	国家の品格	新潮社	社会科学	現在進行中のグローバル化に対して「孤高の日本」であれと説く筆者の真意を知ろう。	304/F
53	ジョエル・アンドレアス	戦争中毒：アメリカが軍国主義を脱け出せない本当の理由	合同出版	社会科学	「集団的自衛権」が話題になる今年、同盟国としてのアメリカとどのように付き合っていくかを考えるための材料になる本。挿絵が多いので大変読みやすい。国際政治や国際経済の理解も進む。名著。	392.53/A

平成26年度目白の100冊＋α

No.	著者名	書名	出版社	分野	推薦者のコメント	請求記号
54	アレックス(サンディ)・ペントランド	正直シグナル：非言語コミュニケーションの科学	みすず書房	社会科学	本書は、非言語的シグナルによるコミュニケーションの領域に初めて科学のメスを入れた研究と、そのパイオニアである著者のビジョンを覗きこみ、世界が注目する独創的な研究から、イノベーションと物語が生まれる瞬間を切り取った刺激的なレポートである。そのため、言語や文化を勉強する人、また、心理学を勉強する人などに読んでもらいたい。	361.454/PE
55	朴一	日本人と韓国人「タテマエ」と「ホンネ」：「韓流知日」を阻むもの	講談社	社会科学	竹島問題で緊張と関心が高まる日韓関係、日韓の亀裂がさらに深まるのか、双方がこれまでの軋轢を乗り越えて新たな関係を築けるのか、大いに注目が集まる。韓国語学科の学生でなくとも、韓国が竹島にこだわる理由など韓国の反日感情に潜み、日本人で報じられない日本政府の失策、漁業現場の食い違いなど今後の日韓関係を考える上での基礎知識を強めてほしい。	319.1021/PA
※56	吉見 俊哉	ポスト戦後社会	岩波書店	社会科学	60年代から現在までの政治・経済・社会・家庭の姿を読み解くガイドとなる一冊。就職活動前に丁寧に読んでおくことをお勧めします。	080/ISR/1050
57	P.F.ドラッカー	マネジメント：基本と原則 [エッセンシャル版]	ダイヤモンド社	社会科学	家庭、学校、バイト先。皆さんが属するすべての組織で役立つ、新しい目的意識と勇気を与える書。社会人として新たな一歩を踏み出す前に、自らの前にある機会と挑戦は何かを改めて考えてほしい。	336/DR
58	スティーヴン・D・レヴィット、スティーヴン・J・ダブナー	ヤバい経済学：悪ガキ教授が世の裏側を探検する	東洋経済新報社	社会科学	経済学をほんとうに面白くした「ヤバい」本。米国の凶悪犯罪は減少したのか？ 銃とプール、危ないのは？ など社会問題を経済学の視点から読み解く。	331/L
59	エーリッヒ・フロム	自由からの逃走	東京創元社	社会科学	自由であることの不安から、そこから逃走し権威あるものにすがってしまう。ナチズム・ファシズム・権威主義にはまる人間心理を鋭く分析している。	361.4/F
60	ジョージ・リッツア	マクドナルド化する社会	早稲田大学出版部	社会科学	それは、効率性、計算可能性、予測可能性、制御という原理が支配する合理化された世界。この合理化された世界から脱け出す途はあるのか？	361.5/R
61	福岡 賢正	たのしい不便：大量消費社会を超える	南方新社	社会科学	自販機で買うのをやめてみる、米を育ててみる…あまりにも増えた「便利」に疑問をもち、一つ一つ、やめてみたり、自分の手でやってみたり。たのしい不便のたのしい記録。	365.04/FU
※62	吉田 守男	日本の古都はなぜ空襲を免れたか	朝日新聞社	社会科学(歴史)	太平洋戦争時、京都・奈良・鎌倉といった日本の古都が米軍の空襲を免れたのは、その価値を認めてくれたからだ、という「定説」を厳密な歴史の手法で検証する。日本の戦後史を考える上で欠かせない書。	210.75/YO
63	梅棹 忠夫	文明の生態史観	中央公論社	社会科学(歴史)	日本文化の世界的位置づけががらりと変化する歴史的名著。	204/U
※64	吉村 昭	三陸海岸大津波	文芸春秋	自然科学	記録小説の大家である作者が、明治・昭和の過去の東津波を、前兆・被害・救援の様子を体験者の貴重な証言をもとに再現した作品。過去の体験・証言の大切さを体感してください。	425.512/Y
65	野口 晴哉	風邪の効用	全生社	自然科学	人はなぜ風邪をひくのか。風邪を体の自然でありがたい調整作用としてとらえ、自分の体を他人に治してもらおうとする生き方への疑問を投げかけた名著。	493.87/N
66	コンラート・ローレンツ	ソロモンの指環	早川書房	自然科学	自分を人間だと思い込んで女性に恋するハイロガン。動物行動学の権威が語る魚、鳥、けものなどの生態をユーモアたっぷりに語る。誰でも楽しめる動物行動学入門。	481.781/L
67	松原 始	カラスの教科書	雷鳥社	自然科学	動物行動学研究の彼はカラスの生態を追う。カラスの青年団、ラブラブカップルや離婚率ほぼゼロだけれど離婚してしまったカップルの話。町のカラスの観察眼がきつと変わりますよ！	488.99/MA
68	柳原 和子	がん患者学：長期生存をとげた患者に学ぶ	晶文社	自然科学(医学)	いつかはわれわれ自身の多くが、あるいは周りの誰かが患者になる。無念の時間を減らすために、少し余裕のある時に読んでおきたい。	494.5/Y
※69	レイチェル・カーソン	沈黙の春	新潮社	技術	1950年代に、農薬など化学薬品の乱用がもたらす自然破壊の恐ろしさと人体への影響をいち早く警告し、現代の環境問題・自然保護運動のきっかけとなった作品。	519/C
70	石川 拓治	奇跡のリンゴ：「絶対不可能」を覆した農家木村秋則の記録	幻冬舎	産業	「絶対不可能」といわれたリンゴの無農薬栽培に成功するまでの道のりを綴った実話。仕事、家族、他人との関わり、人としての生き方など、様々なことを考えさせられる一冊。	625.21/1

平成26年度目白の100冊＋α

No.	著者名	書名	出版社	分野	推薦者のコメント	請求記号
※71	エリック・シュローサー	ファストフードが世界を食いつくす	草思社	産業	ファストフード産業の「見せられない現実」を敢えて暴き出したノンフィクション。グローバル化する現在、米国のことと高をくくってはられない。	673.97/SC
72	ポール・ロバーツ	食の終焉：グローバル経済がもたらしたもうひとつの危機	ダイヤモンド社	産業	グローバル経済による農作物の低コスト、大量生産が生み出す問題をクローズアップする。このシステムは継続可能なのだろうか？	611.3/R
73	西江 雅之	「ことば」の課外授業：“ハダシの学者”の言語学1週間	洋泉社	言語	型破りな文化人類学者による「ことば」の解りやすく、また奥深い解説。ありふれた教科書では無視されてしまうようなことばの特徴や不思議を、美しい文章で語ります。	804/N
※74	今井 むつみ	ことばの発達の謎を解く	筑摩書房	言語	単語も文法も知らない赤ちゃんが母語を使いこなせるようになることを発達心理学、認知科学の視点から、思考の道具であることばを獲得するプロセスを描いた本であるため、言語学を勉強する人には是非紹介したい。	376.11/1
75	ガイ・ドイッチャー	言語が違えば、世界も違って見えるわけ	インターシフト	言語	言語が知覚や思考を変え、世界観までかえることは言語の力を表現することだと思い、言語を勉強するすべての学生に読んでほしい。	801.09/D
※76	マーク・C. ベイカー	言語のレシピ：多様性にひそむ普遍性をもとめて	岩波書店	言語	見た目はかなり違っても、パンとクラッカーのレシピの違いは大きじ一杯のイーストだけと言うように、似たところなど何ひとつなさそうな言語同士も、実はレシピがほんの一点所違うだけかもしれない。言語学は、日本語や英語、アメリカ先住民の言語など、あらゆる言語の多様性の本質に迫りつつある。言語を学ぶ学生に読んでもらいたい。	801/B
※77	岡本 真一郎	言語の社会心理学：伝えたいことは伝わるのか	中央公論新社	言語・心理学	ことばを「文字どおり」に使っているわけではないため、話していないのに伝わることもあれば、丁寧に説明していても誤解されることがある。このような現象はなぜおきるのかを社会心理学の視点から考えた本であるため、ことばや心理学を勉強する人には是非読んでほしい。	801.04/OK
※78	内田 康夫	化生の海	新潮社	文学	名探偵・浅見光彦が登場するトラベルミステリーですが、幼子を残した母親がサブ主人公になっています。なぜ幼子を残さなければならなかったのかという観点で本書を読むと、また違った楽しみ方ができるのではないかと思います。	913.6/UC
※79	加賀 乙彦	錨のない船(上・下)	講談社	文学	二つの母国の架け橋になりたいと願いながら、大空に散った主人公。その青春エネルギーこそ平和な時代に受け継いでいきたい。	913.6/KA
※80	カズオ・イングロ	わたしを離さないで	早川書房	文学	近未来の純愛の一形態を見通す作家の想像力に泣かされる。映画を観る前に一読すれば、二倍の涙活効果があがる。	933.7/1
※81	夏目 漱石	夢十夜：他二篇	岩波書店	文学	日本の幻想文学の原点。多彩で不思議なイメージによって、近代人がおちいる不安や後悔、あせりなどが、格調高い文章で象徴的に描かれる。	913.6/NA
※82	尾崎 翠	第七官界彷徨	河出書房新社	文学	昭和初期の東京で、詩を書く少女と兄たちが味わう奇妙な恋。中井駅の近くに下宿していたモダニズムの女性作家・尾崎翠による、繊細な感性の物語。	913.6/OZ
83	吉本 ばなな	TUGUMI：つぐみ	中央公論新社	文学	海沿いの町で育ったわがままな娘つぐみは、恋をして大人になろうとする時、自分の生き方と向き合い、少女の日々と決別する。成長と喪失の痛みをみずみずしい文章で描く、作者の代表作。	913.6/Y
※84	伊坂 幸太郎	オーデュボンの祈り	新潮社	文学	現在、人気絶頂の作者のデビュー作。奇抜でユーモラスな設定の中、人間以外のキャラクターも活躍し、ミステリー仕立てで善と悪を考えさせる。現代の寓話。	913.6/IS
※85	朝井 リョウ	桐島、部活やめるってよ	集英社	文学	バレー部のキャプテン、桐島が部活をやめる？ 突然の出来事に驚きながら、改めて部活での、あるいはクラスでの自分の立ち位置をふり返る高校生たち。迷い多き青春群像の輝き。	913.6/AS
※86	国木田 独歩	武蔵野	岩波書店	文学	目白大学もその一端にある武蔵野という場所、そこの100年余り前の情景、人々の姿を風情豊かに描く。	913.6/K
※87	日本戦没学生記念会編	きけわたつみのこえ：日本戦没学生の手記(第1集)	岩波書店	文学	憲法九条改訂が話題になる現在、太平洋戦争当時の大学生の思いが鮮明に浮かび上がります。	916/NI

平成26年度目白の100冊＋α

No.	著者名	書名	出版社	分野	推薦者のコメント	請求記号
※ 88	浅田 次郎	蒼穹の昴(1-4)	講談社	文学	日中共同制作のテレビドラマの原作です。中国清代の歴史小説で、教科書が苦手な人はこちらを読むのはいかがでしょうか？ 無理なく頭に入ります。かの有名な西太后が清代末期にどのように関わったのか、宦官の主人公とその友人を軸に語られます。	913.6/A/ 1-4
※ 89	遠藤 周作	深い河(ディープ・リバー)	講談社	文学	人生の鬱屈を抱え、インド旅行に参加した日本人たちが、ガンジス河のほとりで罪や愛や信仰について考え始める。クリスチャンの筆者が、汎神論的な神の存在を示した意欲作。	913.6/EN
90	ユン・チアン	ワイルド・スワン(上・下)	講談社	文学	中国近代史を背景に、著者の育った時代を描いています。特に文化大革命については、教科書では学べなかった内容が良く分かります。中国の近代史を学びたい人には、一押しです。	936/T
※ 91	渡辺 淳一	君も雛罌粟(コクリコ)われも雛罌粟(コクリコ) : 与謝野鉄幹・晶子夫妻の生涯	文芸春秋	文学	明治・大正・昭和を炎のように駆け抜けた情熱の歌人と謝野晶子と夫の与謝野鉄幹の生涯が書かれた本です。11人の子を立派に育て多くの歌集を世に残した晶子の生涯が読み解けます。	913.6/WA
92	宮尾 登美子	蔵	毎日新聞社	文学	新潟の旧家の造り酒屋に生まれた「烈」は次第に視力を失っていく。過酷な運命を背負いながら生きていく烈をめぐる家族の愛と、悲しみ喜びを描く。	913.6/M
※ 93	三浦 綾子	細川ガラシャ夫人(上・下)	新潮社	文学	内容が史実か否かは歴史研究者の判断に任せるが、細川ガラシャの誇り高い生き方と、両親である、明智光秀・熙子夫妻の夫婦愛に胸打たれる。	913.6/MI
※ 94	有吉 佐和子	恍惚の人	新潮社	文学	高齢化社会と認知症を予言した先駆的作品。	913.6/A
※ 95	深沢 七郎	檜山節考	新潮社	文学	生産性が低く、日々食べるのに事欠く貧困地方に「親捨て」の習慣がありました。ぎりぎりの環境で生きることと死ぬことが描かれています。	913.6/F
96	三浦 しをん	舟を編む	光文社	文学	辞書を編纂する仕事をする主人公の小説。辞書を改めて見直す機会になった。英単語を覚えては意味を説明しあう遊びも出てくる。書物を読まなくなった若者、ましてや辞書をひかなくなった学生には是非一読を勧める。2012年本屋大賞第一位を取った作品である。	913.6/M
※ 97	ダニエル・キイス	アルジャーノンに花束を	早川書房	文学	知的障害を持つ主人公、チャーリー・ゴードンの一人称物語。最初は読みづらいかもしれませんが、最後は涙が溢れます。是非、一度読んでもらいたい名著です。	933.7/K
※ 98	百田 直樹	永遠の0(ゼロ)	講談社	文学	私たちの祖父母が経験した、悲しいあの戦争。単純な被害者加害者という目線ではなく、生き残りたいと願いながらも、誇りと尊厳・愛を持って戦った人たちの体験を追憶する物語。	913.6/H
※ 99	夏目 漱石	坊っちゃん	新潮社	文学	旧制中学の教師として松山に赴任した「坊っちゃん」に降りかかる出来事や周りの人々、そして正義感や失敗。近い将来社会に出る皆さんの未来の姿に重なるものがあると思います。	913.6/N
100	ノーマン・マク リーン	マクリーンの川	集英社	文学	ブラッド・ピット主演の映画『リバー・ランズ・スルー・イット』の原作。アメリカ、モンタナ州を舞台に、家族・兄弟の絆と葛藤を描いた自伝的小説で、物語を通して語られるフライフィッシングの描写に胸が熱くなります。	933.7/WA
※ 101	石牟礼 道子	苦海浄土(くがいじょうど): わが水俣病	講談社	文学	公害病の原点であり、戦後日本が追いかけて、今行き詰まりを見せている科学・経済神話の病巣を浮かび上がらせた、人間の尊厳の記録。	493.152/IS
※ 102	和田 竜	のぼうの城(上・下)	小学館	文学	「でくのぼう」の城主さまは智力・勇気もないがなぜか領民には人気がある。石田三成の大軍勢に包囲された城を無条件降伏するか？ しかしのぼう様の決断は「戦う」だった。その戦法は！	913.6/WA
※ 103	宮部 みゆき	火車	新潮社	文学	行方不明の関根彩子を捜すことになった休職中の刑事。なぜ彼女は存在を隠さなければならなくなったのか？ 理由はカード会社にあった。ミステリーの傑作。	913.6/MI
※ 104	吉村 昭	白い航跡(上・下)	講談社	文学	明治時代、海軍・陸軍の主たる死亡原因は脚気であった。のちに東京慈恵医科大学を創設する高橋兼寛の不屈の信念と人間愛に満ちた生涯を描く。	913.6/YO

※の表示があるものは新宿図書館2階閲覧室、表示のないものはそれぞれの請求記号の配架場所に配架されています